関連学会印象記

10th Annual Meeting of Society of Cardiovascular Anesthesiologists

藤田昌雄*

10th Annual Meeting of Society of Cardiovascular Anesthesiologists は，Louisiana 州 New Orleans の Sheraton Hotel で，4月10～13日に開催された．会長は同州 Baton Rouge の George E. Burgess, Ⅲ, M. D. である．

この学会の第1回総会は，10年前に同地で開催された．今年は第10回という記念すべき会なので，同学会発祥の地 New Orleans に戻って来たのである．学会最後の夜，Burgess 会長夫妻の招待で，プログラム委員長 R. E. Buckingham (Seattle)，前プログラム委員長 J. E. Wynands (Montreal)，国際交流委員長 G. Silvay (New York city) らと，最も由緒があり100年の歴史を誇る French Quarter の Antoine's Restaurant で dinner を共にする機会をえた．その席上，はからずも同学会の歴史をきくことができた．米国において心臓血管麻酔学に興味をもつ麻酔科医の集合体は，この学会が最初であったわけではなく，Association of Cardiovascular Anesthesiologists というのが，Massachussetts General Hospital と Pennsylvania 大の心臓血管麻酔科医を中心として以前から存在していたのであるが，この association は米国にはめずらしく非常に exclusive で，会員も50名前後と限定していた．そこで南部の心臓血管麻酔科医達が，より open な学会を作ろうということで，Marino, Burgess, Reeves ら数名が発起人となって，彼らの奥さん達も協力して，それこそ手弁当で組織作りに奔走したそうである（これも南部人のヤンキーに対する反抗だろうか）．当時を思い出しながら夫妻交々話され，いずこも同じという感で，大変印象深いものがあった．ちなみに第1回 SCA は50人位だったそうである．Association は現存しているという．会員も重複しており，共存の形をとっているように思われた．10年たった今，SCA の会員は2,000人に達し，心臓血管麻酔学の普及発展に大きく貢献した成果が徐々に現われてきた．第4回．E. G. Estafanous 会長の頃から，海外に会員を求めるようになって，国際交流委員会（当時委員長 S. Tarhan）の活動がにわかに活発になり，ついに一昨年は，欧州の心臓血管麻酔科医と Munchen で International Symposium on Anesthesia for Cardiac Patients が開催され，昨年は神戸で日本循環制御医学会と合同の International Symposium on Cardiovascular Anesthesiology が開かれ，何れも成功したことは高く評価されてよい．今後，英国や東欧諸国（ブタペスト，1990年欧州麻酔学会の前後）で SCA が中心となって国際シンポジウムを持とうという計画が具体化されつつある．

この学会のプログラムの構成は毎回ほぼ一定している．1日目と2日目の午前中と午後後半は，シンポジウム，パネルディスカッション，教育講演など，午後前半は一般演題（口演・パネル）となっている．今回始めての試みとして Poster discussion がメインルームで行われた．これには座長の他に discussant が2人いて，1題づつ Poster をまわってゆくやり方で，丁度日本麻酔学会で行なわれている Poster Presentation と同じ形式である．シンポジウム形式は3題 Cardiopulmonary bypass, Derived Cardiovascular

*東京女子医科大学麻酔科

Presented by Medical*Online

variables-Do they have any meanings in a clinical setting?, Hemodilution, Up date series として Cardiology up date (Right uentricular failure, Coronary blood flow-The unexpected effects of adrenergic coronary vasoconstriction), 教育講演として Perioperative Chest x-Ray interpretation, パネルとして Advances in surgical treatment of congenital heart disease, Contraversies in cardiovascular anesthesia, そして Denton Cooley の Janssen Annual Lecture. その他 Consumer's report として Computed EEG monitor がとり上げられていた.

シンポジウムの1つ体外循環で, Tinker が体外循環の生理を, 圧, 流量, CO_2 の3点からとりあげ, ことに低体温体外循環時の血液ガス分析で, 温度補正を行った $PaCO_2$ 値を 35～40 mmHg に維持すべく CO_2 を Oxygenator に流すか (PH-stat), あるいは補正値の低い $PaCO_2$ (alkali PH) の状態を維持すべきか (α-stat) について, 低体温時理論的には α-stat を維持すべきであるとしながらも, 臨床例での証明の必要性を強調した. 体外循環中麻酔は必要かということで Reeves が内分泌反応の面から, バイパス中麻酔薬を投与した方が良いとしながらも, その効果についての検討は今後なされるべきであるとした. バイパス中の麻酔をどうしているか座長から会場に問われ, 麻薬を持続点滴しているのはごく僅か, 吸入麻酔薬を流しているのが会場の3/5位だったのは面白い. J. Kirklin はバイパスによる血液成分の損傷について述べた. 次いで Cardiology の最近の活動では, Vascular remodelling として Laser angioplasty, thermal angioplasty についての知見が紹介された. 概して教育的なプログラムが多いが, 最新の知見ももれなく紹介されている. 一般演題としては, 右心機能, 超低体温, 体外循環中の生理, 薬物治療, モニタリングなど, 高度な研究成果が多かった. 超音波エコーは日本で開発されたにもかかわらず, その循環モニターへの応用は, 麻酔領域において米国で積極的にとり入れられているのはいささか残念な気がする.

会場は大きな部屋を適宜区切って使われ, 機械展示にはいつも力を入れて誰もが展示場にゆくように, コーヒーブレーク, スナック, 昼食は, そこで無料でサービスされる. パネルは隣接して出されているので, コーヒーブレークや昼食時には機械展示とパネルを同時に訪れることができるようになっている. 朝食はコンチネンタルスタイルで毎朝サービスされるし, 3日間毎晩スポンサーつきリセプションがあるし, 一応会期中はこれらをマメに食べていれば食費は不要ということになる. 過去5－6回同じような内容形式になっているから, 最初からよく構成された学会といえる. Free paper は oral presentation 48題, poster 52題, poster discussion 10題の計110題で毎年少しづつ増えているようである.

ところで米国の南部は私にとって始めてであった. そもそもルイジアナは, 南北はカナダからメキシコ湾. 東西はアパラチャ山脈からロッキ山脈の範囲の広大な土地で, これを1803年アメリカがフランスから僅か1500万ドル (19.5億円) で買ったもので史上最大のバーゲンセールとして名高い. だからこの土地は歴史的にフランスの色彩が濃い. Burgess 会長の住んでいる Baton Rouge も red stick という意味でインディアンとの抗争のなごりという. 一方「欲望という名の電車」で代表される無頼と逸楽の独自の淀んだムードも象徴的である. 丁度この町に着いた日は日曜日で, French Quarter Festival 最後の日であった. 早速に行ってみた. 大通でのジャズに皆酔いしれ, 大道芸人の芸に合いの手をうち, 芸人と見物人と一体になって楽しんでいた姿はいかにも南部的であった. 翌日の夜, オーソドックスなニューオリンズ・ジャズをよみがえらせた Preservation Hall に行ってみた. 30分位歩道で待たされる. 入場料2ドル. 中にはいって驚いた. きたなくて古い, せいぜい40畳位の納屋のような部屋で前にベンチが2列, 後は立見席でギューギューの超満員. 黒人の奏でるジャズは時に強く, 時に絶望的なアイシュウをただよわせる. 北部ばかり見てきた私には, 知らなかった一面を体験した印象深い滞在であった. 今回は日本からの出席者は私だけであった. 来年からはどしどし日本からレベルの高い演題を出してほしいと切に願っている. 今後の SCA の予定は次の通りである.

11th SCA Seattle, 1989年4月16－19日
12th SCA Orlando, Florida, 1990年4月22－25日
13th SCA San Antonio, Texas, 1991年5月6－9日

Presented by Medical*Online